

福岡県のワーキングマザー事情

“仕事と育児の両立” 実態調査アンケート



2012年9月

株式会社アヴァンティ

avanti働く女性研究所事務局

日々、仕事、育児、家事…と奮闘する働くママ。今、福岡・北九州の働くママの現状はいったいどうなのか？
仕事と育児を両立する上での、夫との協力体制や職場との連携・トラブル、行政サービスの利用状況などを探りました。

【調査概要】

1. 調査データ

avanti働く女性研究所

2. 調査方法

avanti働く女性研究所
登録メンバーに対するインターネット調査

3. 調査対象

メンバーのうち、小学生以下の子育て中、もしくは子育て経験のある女性

4. 調査期間

平成24年7月27日～8月6日

5. 調査規模

90サンプル <回答者構成>

●年齢

20歳～24歳	0%	40歳～44歳	22.7%
25歳～29歳	6.8%	45歳～49歳	9.1%
30歳～34歳	18.2%	50歳以上	1.1%
35歳～39歳	29.5%	100%（無回答12.5%）	

●未既婚

未婚	0%
既婚	87.9%
経験有	12.1%
	100%

●雇用形態

正社員	42.9%	経営者	14.3%
契約社員	4.4%	その他	7.7%
派遣社員	4.4%	パート・アルバイト	16.5%
100%（無回答9.9%）			

●職種

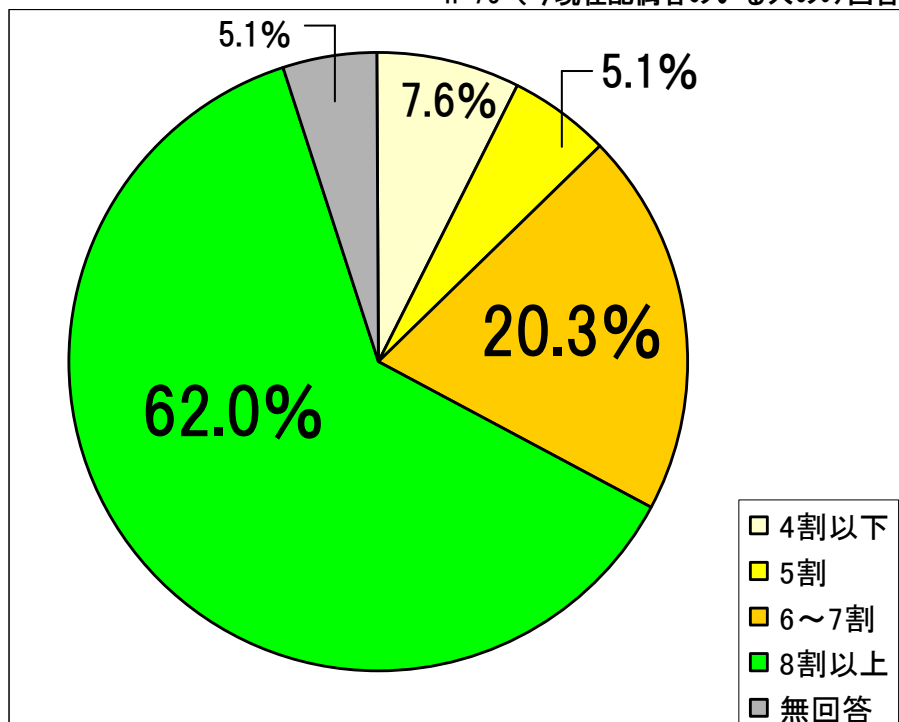
事務	24.2%	専門職	27.5%
営業	8.8%	管理職	6.6%
販売	6.6%	その他	13.2%
接客	4.4%	100%（無回答8.8%）	

家事も育児も、妻が負担...

Q1. 夫との家事分担の割合は？

(妻の分担割合)

n=79 (今現在配偶者のいる人のみ回答)



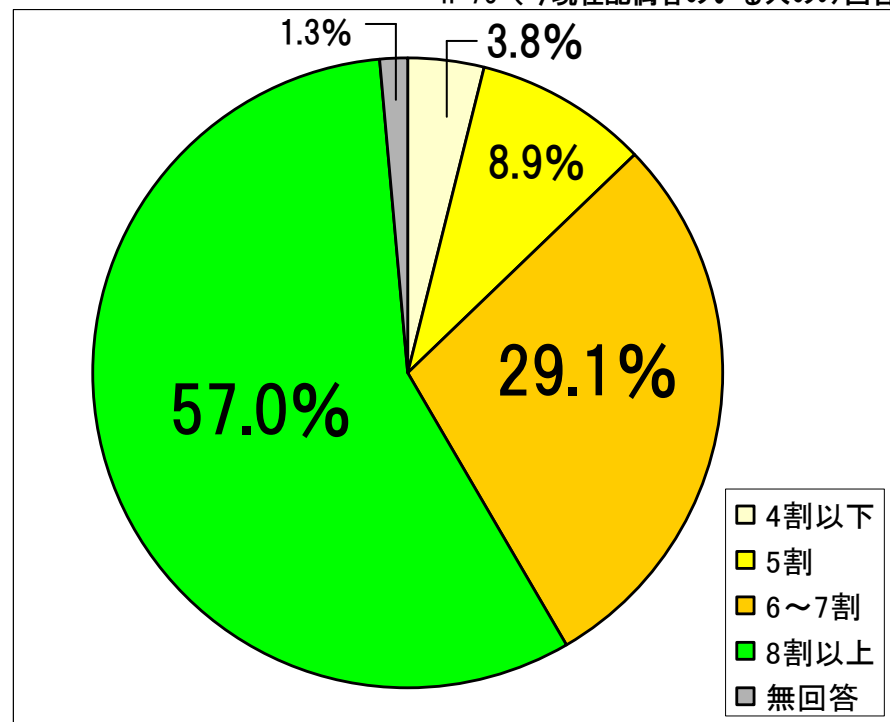
平均 妻8 : 夫2

妻のほう「6~7割」「8割以上」の家事分担をしていると回答した働くママが、実に**80%以上**。日頃の家事負担の多くが、働く妻にのしかかっている現状が明らかに。

Q2. 夫との育児分担の割合は？

(妻の分担割合)

n=79 (今現在配偶者のいる人のみ回答)

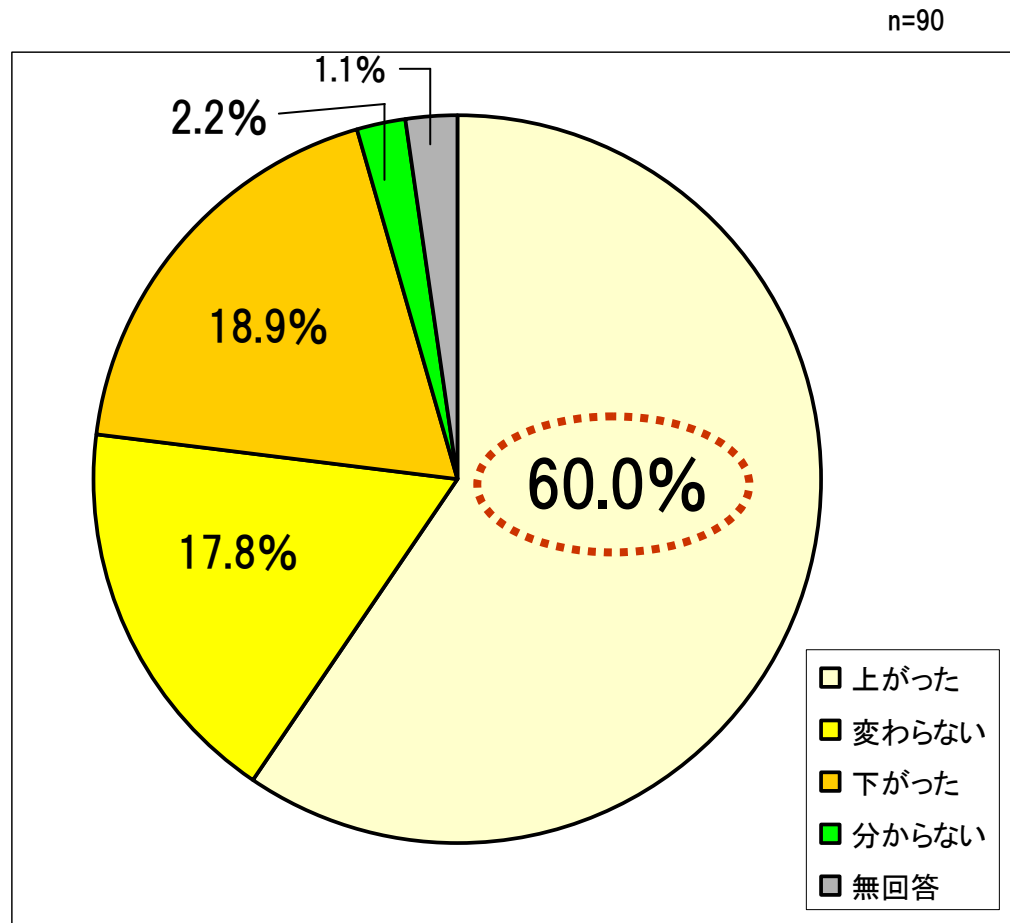


平均 妻7.5 : 夫2.5

家事分担と同様の結果がみられた。ただ、「8割以上」が若干減り、「6~7割」が家事分担より約**10%増加**しているため、育児のほうはやや積極的な夫の姿勢が垣間見えるようだ。

育児経験は、仕事にも大いに役立つスキル

Q3. 育児を経験することで、育児をする前と比較して仕事の効率（1時間あたりの生産性）は上がったと思いますか？

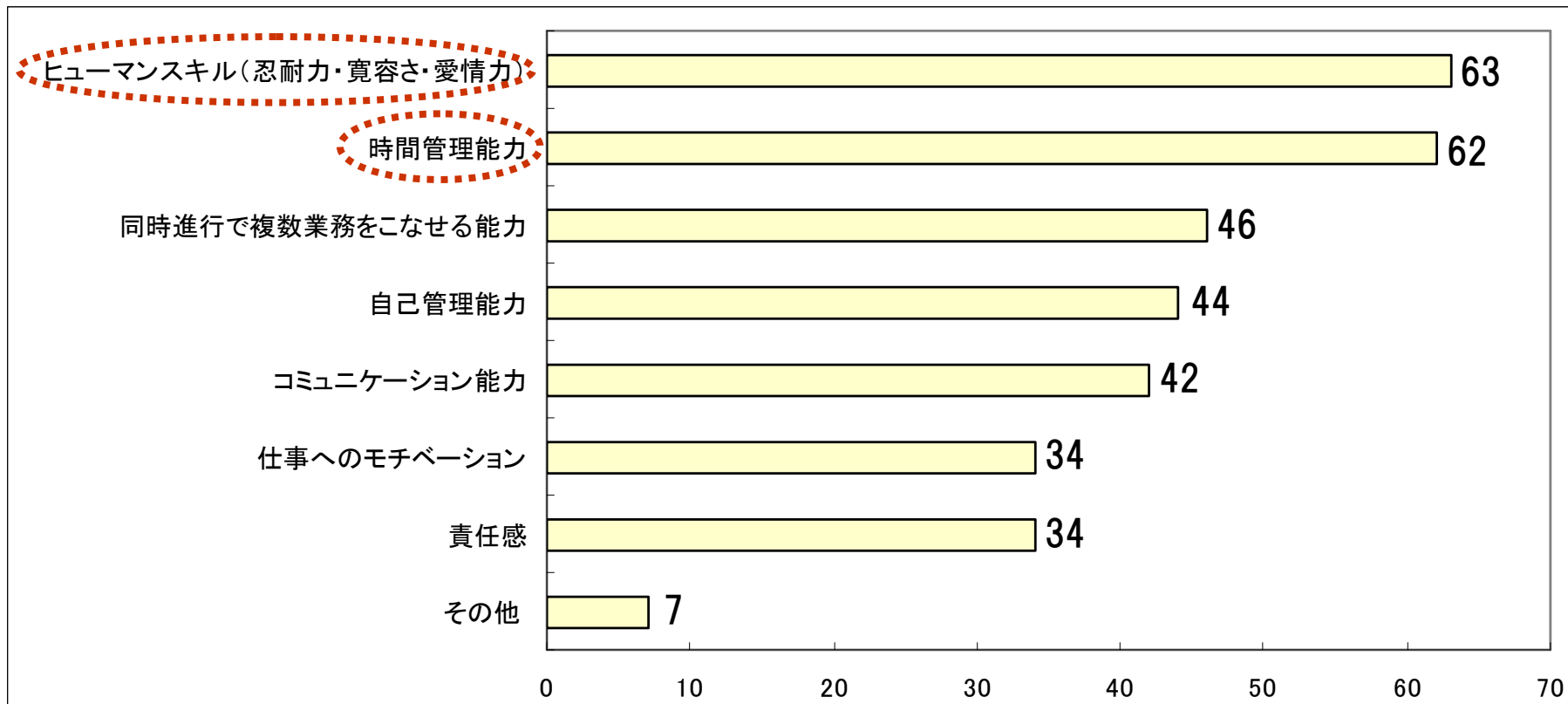


約60%もの人が、育児をする前より仕事の効率が「上がった」と回答。育児経験は仕事のスキルにも応用できることを示している。一方で仕事の効率が「下がった」人も約20%。産休・育休によって職場を長く離れたことが影響しているのかもしれない。

育児で身につくスキル＝忍耐力・時間管理能力・・・etc.

Q4. 育児を経験する前と比較して、仕事をする上で上がったと思う具体的な能力や思考はありますか？（複数回答可）

n=90



トップ3は「ヒューマンスキル」、「時間管理能力」、「同時進行で複数業務をこなせる能力」との結果に。子どもと過ごす時間の中で忍耐力や寛容さ、愛情力が育まれ、限られた時間の中で家事・育児・仕事を両立するうち時間管理や同時並行で多業務をこなす力が磨かれていき、それが仕事にも発揮されているのだろう。

預け先&職場の無理解&罪悪感...働くママの葛藤

Q5. 仕事と育児の両立で、職場との連携や仕事においてトラブルがあったり、苦勞した 経験談があれば教えてください。 n=90

預け先...

子どもの病気、出張、夜の会議など、イレギュラーな事態の**預け先の確保に苦勞**します。(子ども2人・事務)

職場の無理解...

子どもの熱で保育園から呼び出されることが増え、**責任のない業務に変更になり評価も下がった**。(子ども1人・事務)

“無理をして”働いているように見えていたようで、**パートへの変更を勧められた**ことも。(子ども1人・営業)

育児時短勤務をしているため、職場の人に**申し訳ない気持ちでいっぱい**。(子ども1人・専門職)

子どもの急病で早退したり、欠勤するときの**心苦しさ**...。(子ども1人・事務)

働きたい職場ではなく**働ける職場しか選べない**。(子ども2人・専門職)

育児休暇後の復帰となったが、部署、上司、職場メンバーも変わり、**今まで築いたものを一からやり直さなければならなかった**。(子ども1人・販売)

子どもの病時の対応などで早退・欠勤が多く、時間の融通もつきづらい働くママ。預け先の不安、職場への罪悪感、周囲の無理解など、葛藤や辛さを感じている人は多数。

罪悪感や気疲れ...

帰る時間が決まっているため、どんなに仕事が残っていても優先順位の高い仕事のみして後は次の日早く出勤して仕事を片付けます。同時進行でいくつもの仕事を片付けるので**朝から全力で走ってるような感じでヘトヘト**に疲れます...。(子ども1人・営業)

子どもの病気で休むことに**苦言を呈する上司**もいて苦勞する。(子ども2人・営業)

職場との協力体制づくりと時間管理がカギ

Q6. 仕事と育児の両立で、職場との連携や自分の仕事の仕方について、あなたが工夫してよかった経験を教えてください。

n=90

仕事を自分で抱え込まず、周りの人をお願いできることはお願いしています。その後は必ず毎回お礼を伝えています。(子ども1人・営業)

毎日必ずやるべき業務は、理解のある同僚に手順を教え、いざ休んだときはよろしくと頼んでいます。(子ども1人・専門職)

就業終了時間の1時間前を自分の終了時間に設定して業務をこなすようにしたら効率が上がった。(子ども1人・事務)

あらかじめ「子どもが熱っぽい」と職場に伝えておくと、急なお迎えも気持ちよく送り出してくれる。(子ども2人・営業)

仕事がどこまで進んでいるか、いつでもわかるように書類のファイリングや整理整頓を心がけた。(子ども2人・専門職)

一日のやることリストの作成で時間配分の予想を立てたり、移動時間を活用してTEL営業など、**時間管理の仕方と無駄時間を作らないことを意識**した。(子ども2人・営業)

同僚と子どもを合わせると、子どもに対して愛着心を持ってもらえた。(子ども1人・事務)

職場と携帯メールで常にやりとりできる状況を作った。子どもの状態や仕事の状況をリアルタイムでやりとりできるので、何かあっても対応可能。(子ども2人・事務)

とにかく、上司・同僚に子どもや育児について相談したり、今の自分の状態を分かってもらうように努めた。話をするときには、年上の子育て経験者を巻き込むことで、年下や未婚の人にも「大変なんだ」と理解をしてもらえたようです。(子ども2人・事務)

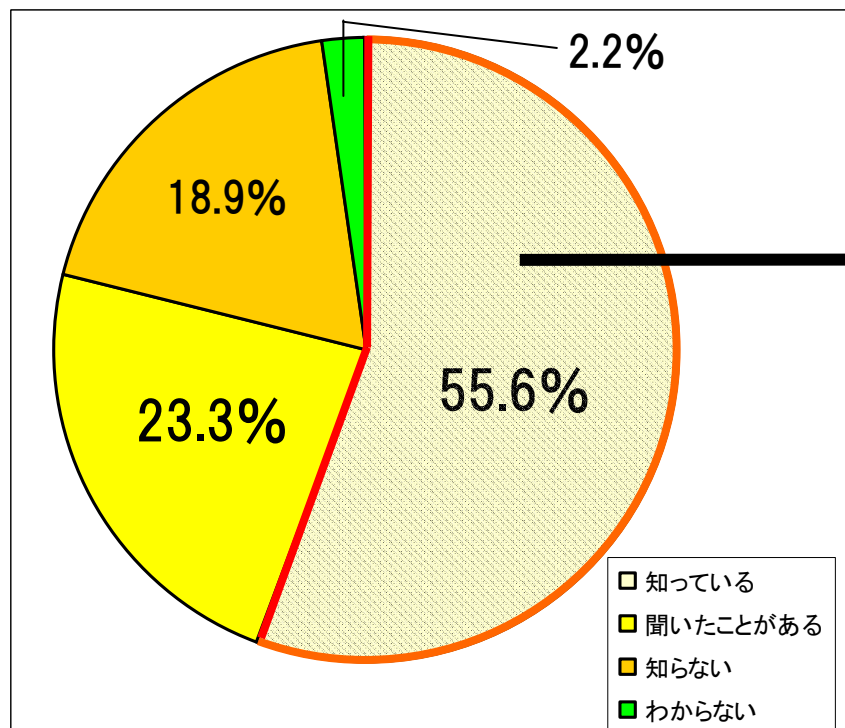
勤務時間に制限があることを予め伝えておき、**余裕をもって業務指示や依頼をもらえるよう、自分から働きかける**。「時間がないのでできません」とは言わず、可能な限り対応できるようにしています。(子ども1人・事務)

職場に理解や協力を求める、報告や連絡の徹底、仕事の効率化を図るなどなど、育児しながらも仕事をスムーズに進めるための様々な工夫がみられる。

「ファミリー・サポート・センター」知ってはいるけど…

Q7. 行政が地域で行う子育ての保育サービス「ファミリー・サポート・センター」という存在を知っていますか？

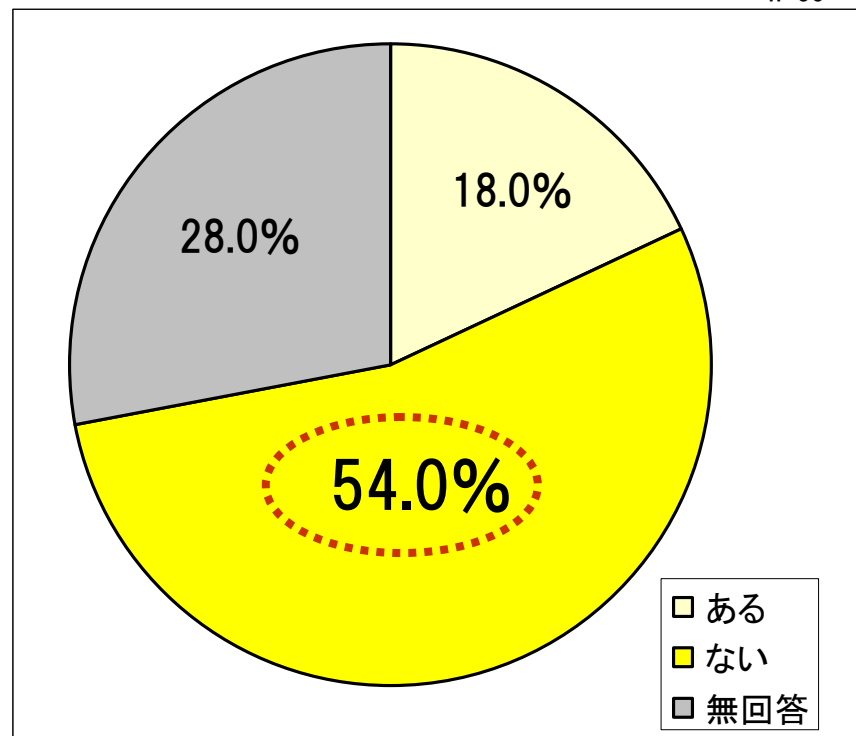
n=90



「知っている」55.6%、「聞いたことがある」23.3%を合わせて、約80%のママたちが「ファミリー・サポート・センター」を認知はしている様子。

Q8. Q7で「知っている」と回答した人へ…
「ファミリー・サポート・センター」を利用したことはありますか？

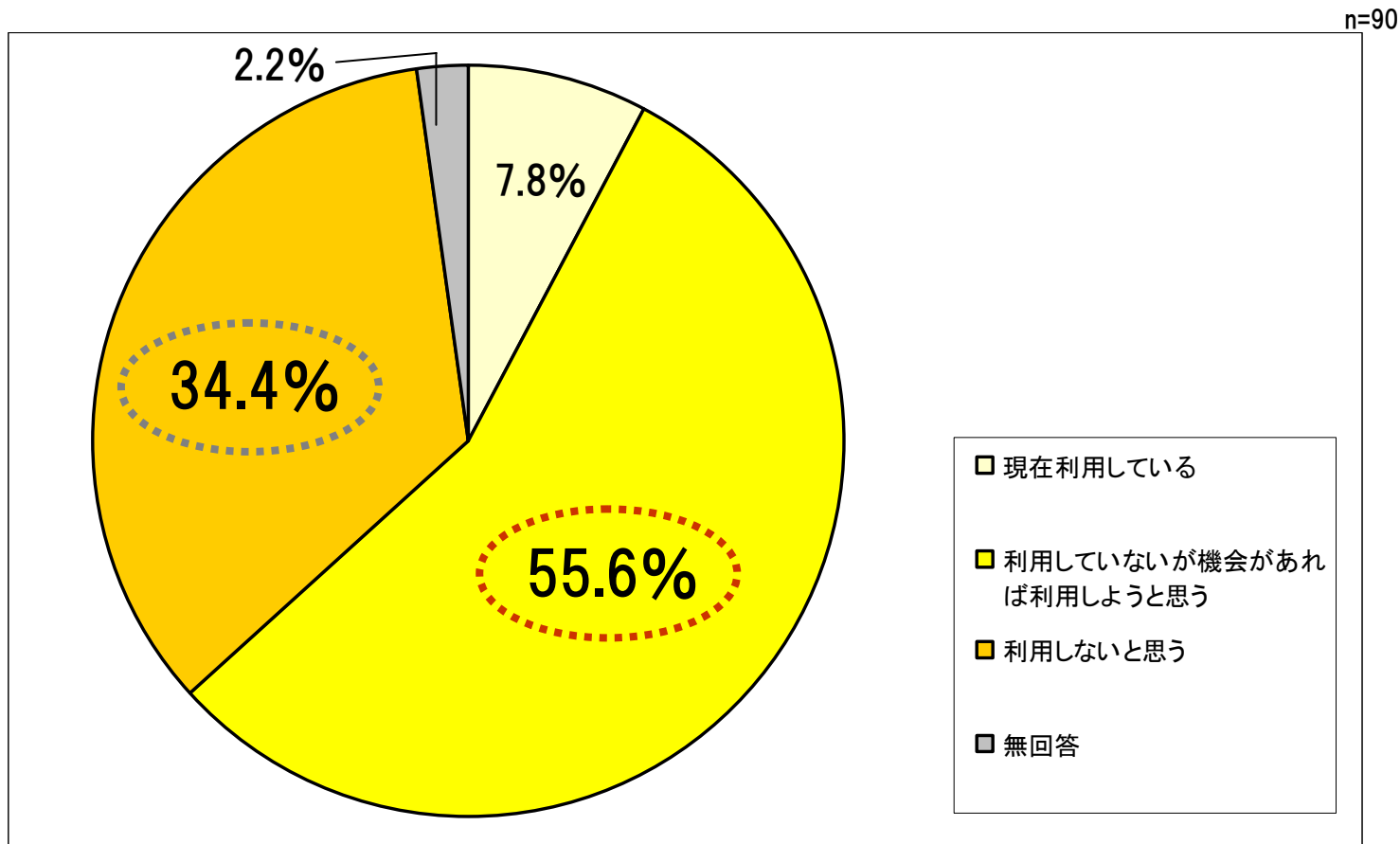
n=50



認知度は約80%だったが、**実際に利用したことがあるママはわずか20%弱**にとどまった。半数以上のママたちが知ってはいるものの利用にまではつなげていないという現実が浮き彫りに。

保育サービス、利用してみたいママ多数

Q9. 保育園や家族以外に子どもを預ける保育サービス（ベビーシッターやファミリー・サポート・センター等）を利用しようと思いませんか？



「現在利用している」のはわずか7.8%だったが、「利用していないが、機会があれば利用しようと思う」という回答が半数以上にのぼる。保育園・家族以外の保育サービスを利用したいという潜在層はかなり多い様子。一方で、「利用しないと思う」との回答も34.4%。夫にも、保育サービスにも頼らず「自分だけで何とかしなければ」と育児の負担を抱え込んでしまう人がいることも明らかになった。

【総括】働くママたちの現状は…

◆家事・育児の6割以上を負担する妻が過半数。

実に**80%以上の妻が、家事・育児の半分以上を担っている**ことが明らかになった。日頃の負担が妻にのしかかっている現実が浮き彫りに。共働きである以上、家事・育児の夫婦分担は必定。妻だけが負担を負うのではなく、夫婦で協力し合える関係作りがこれからますます重要になる。

◆働くママの半数以上が、育児を経験して仕事スキルが上がったと実感。

育児によって培われる力は、仕事にも発揮できることが明らかに。特に「**ヒューマンスキル（忍耐力や寛容さ、愛情力）**」「**時間管理能力**」「**同時進行で複数業務をこなせる能力**」など、育児によって仕事の能力向上につながるスキルが養われるという結果は、キャリアを積みみたい、スキルアップしたいと考える女性にとって非常に心強い結果だといえる。

◆働くママの工夫と働きかけで、職場との関係もよりスムーズに！

子どもの病気や行事などで早退・欠勤が多く、時間の融通もつきづらい働くママは、職場への罪悪感や上司の無理解など、葛藤や苦しさを感じながら仕事をしている場合も多数。だが、**職場に理解や協力を求める、報告や連絡の徹底など、職場との関係性をよりよくする工夫を行う姿勢が多くみられた**。働くママたちの工夫や働きかけが、子育てへの理解や協力を築き、子育てしやすい職場や社会へと変わっていくきっかけになるはずだ。

◆ファミリーサポートセンター、ベビーシッター…「利用したい」と願う潜在層は多い。

約8割のママたちが「ファミリー・サポート・センター」を認知はしているが、**実際に利用したことがあるママはわずか2割**。だが、**それら保育サービスを「利用していないが、機会があれば利用しようと思う」という回答は半数を超えた**。保育サービスを望む潜在層が、どうすれば実際に利用に踏み切るか。今後は、働くママが既存の保育サービスの利用までに至らない原因を探り、より利用しやすい保育サービスへの改善が望まれる。

一方でそれら保育サービスを「利用しないと思う」というママも3割。「すべて自分でやらなければ」という気持ちで育児をひとりだけで抱え込んでしまっているママの姿が垣間見える。「育児を他にまかせるなんて…」という自分の罪悪感や周囲の目に対する意識が保育サービスの利用をはばむ現実もあるのかもしれない。しかし、仕事と育児を両立するには、保育サービスの活用が必要。その認識が広まれば、働くママも心苦しくなく、サービスを利用できるようになるはずだ。

働きながら、家事や育児も担い、時間に追われ忙しい日々を送る働くママ。しかし、働くママへの負担ばかりが増えてしまえば、女性が本当の意味で出産・子育てしても働ける社会の実現は難しいだろう。

家族や既存の保育所のサポートだけでは、もはや女性の仕事と育児の両立は困難な現状がある。実際に、働くママの家事・育児を助けてくれるサービスを利用したいという声は数多く挙がっている。働くママが元気に仕事に向かえるよう、ママたちが実際に利用しやすいと感じる家事・保育サポートのためのサービスや商品が、早急に求められている。



avanti

本件に関するお問合せは、
株式会社アヴァンティ まで

E-mail : labo@e-avanti.com

TEL : 092-724-3226